

大阪府立柴島高等学校 学校運営協議会報告

1 開催日 令和3年2月10日（水曜日）18：00～19：40

2 場所 校長室

3 委員

	氏名	資格	所属
委員	梅本 加奈美	保護者	大阪府立柴島高等学校PTA会長
委員	表西 貴文	地域の関係者	大阪市新大阪人権協会評議員
委員	戸田 和雄	その他の関係者	大阪府立柴島高等学校後援会会長
委員	森田 英嗣	学識経験者	大阪教育大学 副学長
委員	山本 了照	地域の関係者	大阪市立淡路中学校 校長
委員	武田 緑	地域の関係者	Demo(教育ファシリテーター・武田緑事務所)代表

4 学校側（事務局）

坪内教頭、三輪首席（人権教育主担）、内田首席（欠席）、堀事務長

鎌田啓（校長）

オブザーバー 山中多美男（社会福祉法人ノーマライゼーション協会理事長）

傍聴人 阪本 靖栄（元PTA会長、柴島高校後援会役員）

5 会議次第

○学校運営協議会 18時00分から19時40分

- ・学校長 あいさつ
- ・令和2年度学校教育自己診断アンケートについて
- ・令和2年度柴島高校学校経営計画の達成状況について
- ・令和2年度人権教育推進に係る年間総括・分掌総括
- ・次年度に向けて

令和3年度柴島高校学校経営計画について

- ・その他

「商品開発」企画作品 菓匠あさだ：二月の遊菓「りんごくれーぷ」

令和3年度学校運営協議会委員について

第44回卒業証書授与式について

- ・閉会 校長謝辞

【会議の要旨】

委員意見

- ・学校教育自己診断アンケートで生徒、保護者、教職員で数値が違うものの分析をしっかりと行い、その結果について情報提供することが大切である。
- ・教員定数削減で柴島の特色である少人数で多様な科目を選択できることが、だんだん厳しくなっていくことを危惧している。
- ・GoogleClassroom の導入など ICT 化が進んでいるが、ICT 化で逆に人員が必要となる部分があり、人をきちんと充てて教育を保障することが必要となる。
- ・これからは生きるカイコール人権教育として、生きる力を身に着けるためには権利に目覚めるということが大切と思う。
- ・地域課題解決の探求学習はやらされるものに陥りがちなので注意は必要だが、主体的にやりたい子達がいたときに拾い上げる仕組みのようなものがあればいいと思った。

【会議内容】

○令和 2 年度学校教育自己診断アンケートについて（鎌田校長より説明）

表西）これは公表するのか。

鎌田）ホームページに載せる。

山本）エビデンスの意味で評価アンケートを取ることはうちもやっているが生徒、保護者、教職員で共通項目を設定されている。そこで母集団は違うが肯定的意見の数値が同じようなことは当たり前で、例えば 4 番の「先生はお互いに協力し合っている」の数値は生徒と先生で違うが、先生に「生徒はこう思っている」ということを返してあげないといけない。トピック的なものとして、1 番の「柴高に来てよかった」は 82.7% と高く、右肩上がりだが、17.3% はどうなのか。その分析をきっちりやっていくことが大事である。

森田）今回は全体的に数値が上がってよかったが、令和 1 年と平成 30 年が少し下がっていた。評価なのでその要因を考察することが大切だが、それについてはどうか。

三輪）私見だが、一昨年度の体育祭を頂点とする生活指導上の生徒と教員間のトラブルが大きいと思っている。それ以前から生活指導、頭髪指導などをめぐるトラブルがあったが、体育祭において、体育祭を中断して生活指導を行うことで生徒の不満が大爆発し、しかもその点について教員の不一致があらわになった。その件がかなり尾を引いた。2 年前のその時にはネット上で本校生徒のものと思われるネガティブな書き込みが幾つか見られた。そのうち特に幾つかの学校紹介サイトの書き込みはかなり影響力を与えこれが低下につながったと考えられる。このようなことがあって後、生活指導についてかなり注意深く対応してきた。行事について、この 2 年間ににおいては生徒の自主的な運営、取り組みをかなり強化し、特に本年度については体育祭、文化祭共に内容、実施形態、日程に至るまで生徒に原案を立てさせ、その内容をほぼ丸飲みにした。このため、満足したかは個人差があるが、学校への不満はほとんど聞かれない。今の 3 年生が 1 年生の時の出来事とその体育祭の時だったので、今の 3 年生から見たら大分良くなったなという思いは行事についてはあるだろう。生活指導については、今年度についてはほぼ行われなかった。もめる要素がそもそも無かった。それが結構大きかったとも思っている。

森田) 人権の数値が高いのは、いい傾向と思う。

戸田) 前にクラスが少なくなって、先生の人数も削減される問題は、これからも続くようなことを聞いているが、柴島の特色である少人数で多様な科目を選択できることが、だんだん厳しくなっていくことを危惧している。

鎌田) 教員定数について、3年間で8人教員が減るだろうと予想していたが、10人くらい減りそうなことを教育委員会から言われている。最終的にはまだどうなるか分からないが、国の加配の人数、予算が抑えられている。将来的に向けて講座の精選をしていかないと回せないと考えている。

山本) 高校はもっと余裕があると思っていたが、中学が一番余裕がある。加配がない中で柴島高校がやっているような特色を十分発揮しようとすれば先生方もかなり負担と思う。

鎌田) 特に本校はコアカリキュラムという独自の自主科目を設けており、先生方には教科にプラスアルファのことをお願いしている。

三輪) 文科省の公表しているデータでは2年前の全国平均の数値が19.2である。だから大阪は頑張っていた。それを17で行けるようにしていたが、いよいよお金が無くなって全国平均に、20に近づいていくことが予想される。10人くらいは定数が減ると言ったが加配もあったので実際の減はもっと多いと思われる。11か12は3年間で減るだろう。それでは維持できないが教育課程はその年から減らせるものでなく3年後の講座しか減らせない。今、3年後の講座カリキュラムを作っているが、現在、総合選択と呼ばれる科目が88あるが55に減らす予定にしている。自由選択の科目が現在147あるがこれを90弱に減らしていく形で調整している。コアカリキュラムについても1科目減らす。このようにかなり大胆に減らさざるを得ない。これだけ人数が減ってくるとどうしようもない。

山本) 今までそれだけの実績を持ってやってきた。それを府教委はどう見ているのか。それをよしとするなら加配などの保障をするべきでは。

鎌田) ずっと言ってきたが。

山本) 結局教育の質を落としていかざるを得ない。特色が消えていくのかどうなるかわからないが。柴校に来てよかったという生徒がどうなっていくのか。何より先生が倒れないかと心配している。

○令和2年度柴島高校学校経営計画の達成状況について（鎌田校長より説明）

表西) GoogleClassroom は結構使われているのか。

坪内) 府下の高等学校には全て入っている。

表西) 中学はどうか。

山本) これから入ってくる。

鎌田) 大阪府が入れる前に当校は先駆けて始めていた。

森田) 利用頻度は高いのか。

鎌田) 高い。

山本) ギガスクール構想の一環。

表西) 学校以外でサイトを立ち上げてやられるよりこの方がよい。24時間対応か。追々勉強させてもらう。

鎌田) これを使って課題を生徒に送って返してもらおう。それと全体での健康観察。

山本) 生徒向けの電子掲示板はいいですな。うちも取り入れたい。

鎌田) 玄関と各フロアに2つずつ置いている。

山本) 発信源は。

鎌田) 職員室にある。

坪内) サーバーが入っていて、発信できるものはパワーポイント、JPEG等を選べるし、解像度もモニターごとに変えることができる。

山本) 人の話だが、ICT化で人の軽減が図れている一面があるのか。

坪内) 逆にやればやるほど人がいる。

鎌田) コロナの影響で学校に出て来れない生徒がいる。授業の映像をきっちり送ろうとすればそこに人が一人いる。生徒全員が休んでみんなに同じものを送ることはできるが、授業をしながら誰かに配信することは不可能。そうすると教室ごとに新たな人が必要となる。人が減る話ではなく、人をきちんと充てて教育を保障することが必要となる。

戸田) 後援会の役員が来ている。傍聴を認めてほしい。

森田) 傍聴を認めます。

(傍聴者1名入室)

武田) 科学的データ分析による科目選択・進路選択の項目のFINE SYSTEMの中身をもう少し説明してほしい。

鎌田) 「科学的に」という文言は変えていった方が良いかも知れない。実際には主にデータ管理で、それをどのように使うかは教員にかかっている。それぞれの模試の成績などから生徒の取り組みを引き出して生徒にどのように対応していくのかを見て判断するのは教員であるが、生徒自身もコンピュータから自分のことを取り出して考えていくことができるベネッセのシステムであり、進路指導部や担任でも活用している。「科学的に」というのはコンピュータを使ってという位の意味である。

武田) データベースやeポートフォリオのようなものとは別か。

坪内) 違うと思う。実際には実力テストを業者がやっているので実力テストのデータを細かく分析して他校と比べながらという形である。eポートフォリオは自分からデータを書き込んでいくがそれについてはほとんど現状ではない。

武田) ありがとうございます。

山中) 話は変わるが、先ほど学校はやればやるほどしんどくなると聞いた。だがそれを聞いても我々は何もできない。柴島高校の柴島高校学校運営協議会の名前で府教委に要望をあげられないのか。柴島高校はこんな状態であり、柴島高校の取り組みに教育的な手立てをしてほしいと。学校は一生懸命校長が要望書を上げていると思うが、学校運営協議会として教育委員会に要望を上げることはできないのか。学校の取り組みが弱ければしっかりしてくれということはあるが、やっているのに運営協議会としてどうもできない。このままでは校長や先生方が倒れてしまう。

鎌田) 学校のあり方について意見をいただいてそれについて協議する組織ではあるが、本校のことを上に上げていくものでないことを分かっていたきたい。

山本) 学校長がそれを陳情することは立場上難しい。それよりもPTAや後援会が、地元の議員を通じてと、筋道としてはそちらと思う。

森田) 校長と相談して次回くらいまでに答えられるようにしたい。

山中) 私は学校運営協議会メンバーとしてではなく、東淀川解放教育共闘会議で府会議員に陳情を行った。また府の人権教育推進課にも要望書を上げた。やれることはやらなあかんと思ってやった。何かの力で学校を支えることができないものかと思う。

坪内) 今後の課題という形で取り組みたいと思っている。

○令和２年度人権教育推進に係る年間総括・分掌総括（三輪首席より説明）

山中) 就職してから子ども会で非行防止の取り組みの活動をしたが、学校で教科書や宿題を忘れてプラカードを首にぶら下げられて子ども達が「学校に行くのがいやや」となった事件が起こった。その時は怒りに燃えたが、そこから教育の無償化とか権利というものを学習していった。その時の勉強は先生から「勉強せい」と言われてではなく、自分から知識が欲しくなったもの。最近、西成高校の取り組みが生きる力か何かでテレビで放映されていた。あれを見ていて自分の若いころの取り組みと思った。自主的に学習する習慣を付けるというよりも何か怒りたいなものがあって、こういうことは本来許されないこととか、制度的に保障されていることとか。１７歳で子どもを産んだ女性が出ていたが、その女性が権利に目覚めていく。そこから彼女は一生懸命に勉強していく。人権教育は同時に権利に目覚めさせるということだと思う。昔の人は教科書がないのは親が悪い、家が貧乏やからとか諦めていたが、諦めんでもええということを堂々と権利として言えるということが大事なことじゃないかと思う。これからもっと「生きる力」イコール「人権教育」として、生きる力を身に着けるために権利に目覚めるということが大切と思う。

山本) 私も見たが柴高とダブって仕方がなかった。

三輪) かつての柴島と同じ。ただ西成高校もおそらくこれから直面するだろうが、うちがテレビで取り上げられた時は反作用はえげつなかった。自分たちが見たときは自己満足に陥っていたが、一般社会はうちの学校がこれほどひどいのか。後にはあのテレビを見て入学を辞退する者が出た。現に現在の西成高校は定員割れである。あんなに素晴らしい学校なのに、ということ自分を思ってしまう。社会的には十分意義があるのにそれが伝えられないもどかしさがある。

表西) １２頁を見ると問題行動が飛躍的に増えているがこれは何かあったのか。

三輪) 大人数が一度に捕まったため。その中には誕生日にクラッカーを鳴らしたとか軽微なものもある。

鎌田) 友人が集まって親も知った上でマンションの屋上で酎ハイを飲んでバーベキューをしたとかグループでしたものが多かったので件数が増えた。

表西) コロナ禍と相まって何かあったのかと心配したが了解した。

武田) 大学進学を通して社会変革できる子ども達を輩出していく構想のような話があったが、それもよいが、高校在学中に高校の授業等の取り組みの中で、ソーシャルアクションみたいなことを経験できるような機会がそんなにないと思う。実際に行事を作るとか自治的な活動をするのもそれと通底していると思うが、探求学習の中でとかライブラリの中で、部落問題、障害者差別とか社会に対して疑問を抱いた生徒たちが何かやってみる、発信してみる、取り組んでみるみたいな機会が作っていけるといいと思う。やっている部分もあるかも知れないが。地域課題解決の探求学習はやらされるものに陥りがちなので注意は必要だが、主体的にやりたい子達がいたときに拾い上げる仕組みのようなものがあればいいと思った。

三輪) 主体的にはやはり難しい。生徒の興味、関心がなかなか社会課題に向かない。ただ社会課題への

取り組みということについては、2年生の協働という授業で今年からかなり意識的に始めている。それを本当は課題解決という形でやりたかったが、グループワーク禁止、外部講師禁止になってしまったため、今年は頓挫したという経過がある。コロナの状況を見ながら来年度以降いけたらやっていきたい。その中で社会課題の解決に向けて自前のアクションを起こしたいという動きが出てくれば確かに一番素晴らしいことである。

武田) 来年度以降、具体的にやられる時はタイミングが合えば見学等したい。

梅本) 協働の授業で今年は、Web で YouTube に上げてクラスごとに7組の取り組みが上がったが、その中で「かまどベンチ」を提案したクラスがあった。それは普段はベンチとして使用できて、災害の際には炊飯もできるもの。集まれなかったのも Web での判断となったが、やってみてはどうかということになった。もし実現したら見学してほしいと思う。

武田) 是非お願いしたい。

(山中氏、所用のため退席)

梅本) 関係ないが、中止になった修学旅行はどうなるのか。

坪内) 今のところ来年度、新3年生は期間を短縮して実施する方向。このため来年度は新2年生と新3年生が修学旅行に行き、同様に今年度の1年生は HR 合宿がなかったので、来年度は新1年生と新2年生が4月に HR 合宿をする予定である。

梅本) 行ける方向で良かった。

坪内) ただ今までは離島という形でさせていただいたが、もしものことがあると、ということで行き先を変える方向です。

○次年度に向けて～令和3年度柴島高校学校経営計画について（鎌田校長より説明）

山本) GoogleClassroom は、高校は令和2年度に入ったようだが、中学も大阪市は3月に入る。有効利用できるか、我々のスキルが次の課題になってくる。今の子どもはスッと入っていくが。

三輪) 現状では使いたいけれど、無いから生徒の個人所有のスマホを使っているので、何も困らないが、プラスαでできることが色々あるのでその部分についてもう少し研究したい。もう卒業研究とか完全にリモートでしていたので。

梅本) 学校で YifI は入っているか。

坪内) 教室に入っている。

鎌田) 課題の提出もペーパーではなく、それでデータや写真で生徒から教員にくる。それで既にやっているところを子供たちにこれが使えると。本校では学校に充電するドックができるが、家にも持って帰らせるつもりでいるので、家でも学校でも使える。今、生徒はスマホの GoogleClassroom で先生とのやり取りをしている。

山本) デジタル教科書も入るのか。

三輪) 可能性はある。

山本) 中学もデジタル教科書は使ってもよいと言っているので、重たいカバンを持たなくてよい。また今の学生カバンはそれを保護する機能も付いている。時代は変わっている。

坪内) 子どもたちは辞書を持ち歩いていない。

○その他（鎌田校長より説明）

- ・「商品開発」企画作品 菓匠あさだ：二月の遊菓「りんごくれ一ふ」

- ・令和３年度学校運営協議会委員について

鎌田）２年任期で次年度も継続でお願いしたいが、ＰＴＡ会長は保護者の立場で入っていただいているため次の会長に替わっていただく。梅本さん、本当にありがとうございました。

梅本）ありがとうございました。

- ・第４４回卒業証書授与式について

鎌田）２月２５日に今年の授与式を行うが来賓は一切呼ばないよう指示が出ているのでご理解いただきたい。保護者は人数制限は設けながらも来ていただけるようにした。また入れない方も視聴覚室で映像を見ながら参加していただく。